

**鈴鹿亀山地区広域連合
高齢者介護に関する調査**

**結果概要
【鈴鹿市体系整合版】**

調査の概要 (鈴鹿亀山地区全体)

1. 調査の目的

この調査は、令和9年度から実施する「第10期介護保険事業計画」の策定作業の中で、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉サービスを充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2. 調査の方法

① 調査対象地域 鈴鹿亀山地区全域

② 調査対象者

調査種別	調査対象者	調査件数
(1)在宅介護実態調査 【以降は「在宅調査」とします】	要介護認定(要介護 1～5)または要支援認定(要支援 1・2)を受けている在宅の方とその介護者の方	2,000 人抽出
(2)介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 【以降は「ニーズ調査」とします】	65 歳以上の介護保険の被保険者で、介護保険の要介護認定(要介護 1～5)を受けていない方	2,000 人抽出
(3)第2号被保険者調査 【以降は「2号調査」とします】	40～64 歳の介護保険の被保険者のうち 55 歳以上で介護保険の要支援・要介護認定を受けていない方	1,000 人抽出
(4)居宅介護支援事業所調査 【以降は「居介調査」とします】	管内の居宅介護支援事業所及び介護予防支援事業所	すべて (79 事業所)
(5)介護支援専門員調査 【以降は「ケアマネ調査」とします】	管内の居宅介護支援事業所及び介護予防支援事業所に所属する介護支援専門員の方	すべて (269 人)
(6)サービス提供事業所調査 【以降は「事業所調査」とします】	管内の介護保険サービスの提供事業所(有料老人ホーム及びサービス付き高齢者向け住宅を含む)	すべて (395 事業所)

③ 調査期間

調査種別	調査期間
(1)在宅調査	令和7年12月 (調査基準日は令和7年11月15日)
(2)ニーズ調査	
(3)2号調査	
(4)居介調査	令和8年1月 (調査基準日は令和8年1月1日)
(5)ケアマネ調査	
(6)事業所調査	

④ 調査方法

調査種別	調査方法
(1)在宅調査	調査票による本人記入方式、 郵送によって配布し、調査票またはウェブにて回答・回収
(2)ニーズ調査	
(3)2号調査	
(4)居介調査	
(5)ケアマネ調査	
(6)事業所調査	

3. 配布・回収数

(単位：件)

調査種別	配布数 (A)	未着 数 (B)	有効 配付数 (C=A-B)	回収数 (D)	回収率 (D/C)	白紙 回答 (E)	有効 回収数 (F=D-E)	有効 回収率 (F/C)
(1)在宅調査	2,000	4	1,996	1,063	53.3%	35	1,028	51.5%
(2)ニーズ調査	2,000	3	1,997	1,244	62.3%	6	1,238	62.0%
(3)2号調査	1,000	3	997	463	46.4%	3	460	46.1%
(4)居介調査	79	—	79	69	87.3%	—	69	87.3%
(5)ケアマネ調査	269	—	269	214	79.6%	—	214	79.6%
(6)事業所調査	395	2	393	329	83.7%	1	328	83.5%

4. 報告書の見方(注意事項)

- ① グラフおよび表中の n 数(number of cases)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
- ② 調査結果(表中)の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出し、小数点以下第 1 位までを表示しています。したがって、回答者比率の合計は必ずしも 100%にならない場合があります。
- ③ 複数回答形式(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数を基数として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が 100%を超えることがあります。
- ④ 令和 4 年度に実施した前回調査(第 9 期介護保険事業計画の策定にかかる調査)において同一の設問を行っている場合は、前回調査との比較を行っています。その際、前回調査については「第 9 期調査」と表示しています。
- ⑤ 選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。

調査結果のポイント (鈴鹿市版)

※ただし、居介調査、ケアマネ調査、事業所調査は広域全体の結果

1 地域包括ケア体制の充実

■鈴鹿亀山地区における地域包括ケアの取組状況

居介調査 問13、ケアマネ調査 問34、事業所調査 問31

鈴鹿亀山地区においては「地域包括ケアシステム」の深化・推進に向けて、さまざまな取組を進めていますが、どのような点で取組が進んでいると思いますか。(複数選択可)

取組が進んでいる点についてみると、居介調査では「地域ケア会議の推進」が55.6%で最も多く、「認知症施策の推進」が27.0%で続いています。「地域ケア会議の推進」は第9期調査から11.0ポイント増加しており、取組が進んでいる点として特に高く評価されています。

ケアマネ調査でも「地域ケア会議の推進」が45.1%で最も多く、「総合相談と情報提供の充実」が31.3%で続いています。「地域ケア会議の推進」は第9期調査から2.2ポイント減少しているものの、引き続き最も多く挙げられています。事業所調査では「地域ケア会議の推進」が42.2%で最も多く、「認知症施策の推進」が32.0%で続いており、「地域ケア会議の推進」は第9期調査から5.2ポイント増加しています。

全体としては、地域ケア会議の推進がいずれの調査でも最も多く挙げられており、あわせて認知症施策の推進や総合相談と情報提供の充実が進んでいる取組として認識されていることがうかがえます。

	居介調査		ケアマネ調査		事業所調査	
	第10期	第9期	第10期	第9期	第10期	第9期
地域ケア会議の推進	55.6%	44.6%	45.1%	47.3%	42.2%	37.0%
総合相談と情報提供の充実	23.8%	20.0%	31.3%	30.9%	28.7%	27.7%
介護予防の推進と生活支援サービスの充実	14.3%	13.8%	20.5%	17.6%	20.1%	24.2%
在宅療養生活の支援	22.2%	24.6%	14.4%	11.7%	8.6%	10.7%
認知症施策の推進	27.0%	38.5%	25.1%	31.4%	32.0%	25.3%
高齢者の尊厳の保持	11.1%	3.1%	7.2%	8.0%	12.9%	12.8%
家族介護者への支援	6.3%	6.2%	13.3%	12.2%	16.5%	19.0%
安定した居住環境の確保	4.8%	0.0%	10.3%	4.3%	5.6%	5.5%
サービス提供基盤の整備	9.5%	7.7%	9.7%	5.3%	5.3%	9.0%
災害や感染症への備えの充実	15.9%	7.7%	14.4%	10.1%	9.9%	11.4%
介護保険事業の健全運営	20.6%	9.2%	12.3%	9.6%	14.9%	12.8%
その他	7.9%	3.1%	8.7%	8.5%	10.2%	10.4%

【居介調査_第10期 n=63、居介調査_第9期 n=65、ケアマネ調査_第10期 n=195、ケアマネ調査_第9期 n=188、事業所調査_第10期 n=303、事業所調査_第9期 n=289】

2 医療・介護連携の推進

■自宅での療養のために必要なこと

在宅調査 問14・30-②(介護者)、ニーズ調査 問68、2号調査 問16

自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(3つまで選択可)

自宅で最期まで療養するために必要なことについてみると、在宅調査では「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が41.3%で最も多く、次いで「かかりつけ医による定期的な訪問診療」が37.8%、「訪問看護（看護師の訪問）の充実」が35.7%、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実」が35.3%となっています。第9期調査と比べると、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」は8.9ポイント、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」は2.4ポイント減少している一方、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実」は8.3ポイント、「訪問看護（看護師の訪問）の充実」は6.9ポイント増加しています。

在宅調査の介護者では、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が50.0%で最も多く、次いで「訪問看護（看護師の訪問）の充実」が45.2%、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実」が40.6%となっています。第9期調査と比べると、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」は11.8ポイント減少している一方、「訪問看護（看護師の訪問）の充実」は8.7ポイント増加しており、医療・介護サービスの訪問体制へのニーズが高まっていることがうかがえます。

ニーズ調査では、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実」が42.4%で最も多く、次いで「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が40.3%、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」が37.3%、「訪問看護（看護師の訪問）の充実」が36.8%となっています。第9期調査と比べると、「かかりつけ医による定期的な訪問診療」や「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」は減少している一方、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実」や「訪問看護（看護師の訪問）の充実」は増加しています。

2号調査では、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実」が47.2%で最も多く、次いで「介護者への支援」が39.9%、「訪問看護（看護師の訪問）の充実」が38.8%、「経済的な支援」が38.5%となっています。第9期調査と比べると、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実」が9.7ポイント増加しており、他の調査と比べても介護サービスや介護者支援、経済的支援を求める割合が高くなっています。

全体としては、自宅で最期まで療養するためには、急変時の入院先の確保や訪問診療・訪問看護などの医療体制に加え、訪問介護や介護者への支援が重要と考えられています。特に第10期調査では、訪問介護や訪問看護の充実を求める割合が多く、調査で増加しており、在宅療養を支える医療・介護サービスの連携強化が求められていることがうかがえます。

	在宅調査		在宅調査(介護者)	
	第10期	第9期	第10期	第9期
かかりつけ医による定期的な訪問診療	37.8%	40.2%	34.2%	46.0%
訪問看護（看護師の訪問）の充実	35.7%	28.8%	45.2%	36.5%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実	35.3%	27.0%	40.6%	39.6%
24時間対応してくれる相談体制	13.8%	13.9%	17.9%	16.5%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	41.3%	50.2%	50.0%	51.7%
介護者への支援	30.8%	28.7%	33.2%	29.8%
居住環境の整備	10.2%	10.1%	9.1%	10.0%
経済的な支援	18.5%	17.8%	15.5%	21.6%
その他	1.1%	1.2%	2.9%	3.6%
わからない	11.8%	9.1%	3.7%	3.1%

	二一ズ調査		2号調査	
	第10期	第9期	第10期	第9期
かかりつけ医による定期的な訪問診療	37.3%	44.0%	25.3%	30.4%
訪問看護（看護師の訪問）の充実	36.8%	33.7%	38.8%	40.9%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の充実	42.4%	40.7%	47.2%	37.5%
24時間対応してくれる相談体制	19.0%	19.7%	15.7%	15.9%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	40.3%	45.8%	28.1%	32.7%
介護者への支援	22.5%	20.9%	39.9%	38.6%
居住環境の整備	8.1%	7.7%	20.2%	21.9%
経済的な支援	21.4%	24.1%	38.5%	37.8%
その他	0.7%	0.9%	0.8%	0.6%
わからない	12.9%	7.5%	5.3%	5.4%

【二一ズ調査_第10期 n=868、二一ズ調査_第9期 n=885、在宅調査_第10期 n=756、在宅調査_第9期 n=656、在宅調査(介護者)_第10期 n=374、在宅調査(介護者)_第9期 n=389、2号調査_第10期 n=356、2号調査_第9期 n=352】

■人生の終末期についての話し相手

在宅調査 問15・31(介護者)、ニーズ調査 問69、2号調査 問17

人生の終末期のことについて話している人がいますか。(複数選択可)

人生の終末期のことについて話している相手についてみると、いずれの調査でも「家族・親族」が最も多く、終末期について話す相手として家族・親族が中心となっていることがうかがえます。

在宅調査では「家族・親族」が72.2%で最も多く、次いで「わからない」が17.6%、「ケアマネジャーなどの介護従事者」が14.5%となっており、「そのような人はいない」は8.0%にとどまっています。在宅調査の介護者でも「家族・親族」が70.8%で最も多く、「ケアマネジャーなどの介護従事者」が18.0%で続いています。第9期調査と比べると、「家族・親族」は15.0ポイント増加している一方、「そのような人はいない」は4.0ポイント、「わからない」は9.5ポイント減少しており、身近な人が終末期について話す相手となる傾向が強まっていることがうかがえます。

ニーズ調査では「家族・親族」が74.1%で最も多く、「そのような人はいない」が22.8%で続いており、「家族・親族」は第9期調査から4.8ポイント増加しています。

2号調査でも「家族・親族」が71.6%で最も多く、「そのような人はいない」が26.2%で続いており、「家族・親族」は第9期調査から3.8ポイント増加しています。

全体としては、終末期について話す相手として家族・親族の役割が大きく、前回調査と比べてもその傾向が強まっていることがうかがえます。

	在宅調査	在宅調査(介護者)	
	第10期	第10期	第9期
家族・親族	 72.2%	 70.8%	 55.8%
医師などの医療従事者	 6.5%	 5.7%	 5.0%
ケアマネジャーなどの介護従事者	 14.5%	 18.0%	 7.8%
弁護士や司法書士	 0.5%	 0.2%	 0.5%
その他	 1.8%	 1.6%	 2.1%
そのような人はいない	 8.0%	 14.1%	 18.1%
わからない	 17.6%	 11.6%	 21.1%

	ニーズ調査		2号調査	
	第10期	第9期	第10期	第9期
家族・親族	 74.1%	 69.3%	 71.6%	 67.8%
医師などの医療従事者	 1.9%	 1.8%	 0.6%	 0.0%
ケアマネジャーなどの介護従事者	 0.6%	 0.5%	 0.0%	 0.0%
弁護士や司法書士	 0.3%	 0.5%	 0.0%	 0.0%
その他	 3.2%	 4.3%	 3.6%	 6.1%
そのような人はいない	 22.8%	 26.5%	 26.2%	 28.1%

【在宅調査_第10期 n=772、在宅調査(介護者)_第10期 n=490、在宅調査(介護者)_第9期 n=565、ニーズ調査_第10期 n=872、ニーズ調査_第9期 n=876、2号調査_第10期 n=359、2号調査_第9期 n=363】

■人生会議の認知度

在宅調査 問32、ニーズ調査 問70、2号調査 問18

人生会議（ACP）について知っていますか。（1つを選択）

人生会議（ACP）の認知についてみると、いずれの調査でも「知らない」が最も多く、認知は十分とはいえない状況です。

在宅調査では「知らない」が75.3%で最も多く、次いで「聞いたことはある」が17.2%、「知っている」が7.6%となっています。ニーズ調査でも「知らない」が81.0%で最も多く、「聞いたことはある」が14.2%、「知っている」が4.9%にとどまっています。2号調査では「知らない」が84.8%で最も多く、「聞いたことはある」が11.0%で続いており、「知っている」は4.1%で最も低くなっています。

全体としては、人生会議（ACP）について「知っている」人は1割に満たず、認知の広がりが十分ではないことがうかがえます。

	在宅調査	ニーズ調査	2号調査
	第10期	第10期	第10期
知っている	7.6%	4.9%	4.1%
聞いたことはある	17.2%	14.2%	11.0%
知らない	75.3%	81.0%	84.8%

【在宅調査_第10期 n=489、ニーズ調査_第10期 n=882、2号調査_第10期 n=362】

3 介護予防・生活支援の推進

■介護予防のために心がけていること

ニーズ調査 問64、2号調査 問13

日頃、健康や介護予防（介護が必要な状態にならないようにすること）のためにどのようなことを心がけていますか。（複数選択可）

健康や介護予防のために心がけていることについてみると、ニーズ調査では「毎日の食事や栄養に気をつけている」が63.0%で最も多く、「睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている」が59.8%で続いています。「毎日の食事や栄養に気をつけている」は第9期調査から1.8ポイント減少しているものの、食事や生活習慣に対する意識の高さがうかがえます。

2号調査でも「毎日の食事や栄養に気をつけている」が58.4%で最も多く、「定期的に健康診断を受けている」が54.3%で続いています。「毎日の食事や栄養に気をつけている」は第9期調査から3.9ポイント増加しており、食事や栄養への配慮に加え、健康診断を含めた健康管理への意識も高いことがうかがえます。

全体としては、両調査とも食事や栄養に気をつけている人が最も多く、健康や介護予防に向けて日常的な生活習慣に配慮している様子がみられます。

	ニーズ調査		2号調査	
	第10期	第9期	第10期	第9期
毎日の食事や栄養に気をつけている	63.0%	64.8%	58.4%	54.5%
睡眠や休養を十分にとるなどして規則正しい生活を心がけている	59.8%	60.2%	45.7%	53.1%
適度に運動をしている	52.7%	52.2%	39.3%	36.8%
酒やタバコをなるべくひかえるようにしている	6.2%	6.1%	10.5%	8.4%
定期的に健康診断を受けている	51.8%	51.4%	54.3%	55.6%
その他	1.0%	1.7%	1.1%	0.5%
特に心がけていない	4.7%	4.6%	8.3%	10.1%

【ニーズ調査_第10期 n=899、ニーズ調査_第9期 n=928、2号調査_第10期 n=361、2号調査_第9期 n=367】

■介護予防活動に対するニーズ

ニーズ調査 問65、2号調査 問14

介護予防のために、地域でどのような活動があれば参加したいですか。（複数選択可）

介護予防のために地域で参加したい活動については、ニーズ調査では「特にない」が39.5%で最も多く、具体的な活動では「運動に関するもの」が29.4%、「認知症予防に関するもの」が27.8%、「食事や栄養に関するもの」が22.3%で続いています。第9期調査と比べると、「食事や栄養に関するもの」は1.6ポイント上昇しています。

2号調査では、「運動に関するもの」が38.8%で最も多く、「特にない」が29.9%、「認知症予防に関するもの」が29.6%で続いています。「運動に関するもの」は第9期調査と比べて3.4ポイント上昇しています。

両調査をみると、「運動に関するもの」「認知症予防に関するもの」「食事や栄養に関するもの」「同世代がふれあえる交流の場」への関心が比較的高くなっています。

	ニーズ調査		2号調査	
	第10期	第9期	第10期	第9期
食事や栄養に関するもの	22.3%	20.7%	29.9%	26.4%
運動に関するもの	29.4%	28.8%	38.8%	35.4%
同世代がふれあえる交流の場	19.5%	21.0%	22.7%	21.3%
子どもなど他世代との交流の場	4.5%	4.3%	7.8%	6.5%
ボランティア活動	4.5%	5.6%	12.5%	12.8%
認知症予防に関するもの	27.8%	29.3%	29.6%	30.5%
歯や口腔衛生に関するもの	6.4%	7.0%	15.0%	15.0%
その他	0.8%	1.2%	0.3%	0.8%
特にない	39.5%	39.6%	29.9%	32.7%

【ニーズ調査_第10期 n=880、ニーズ調査_第9期 n=898、2号調査_第10期 n=361、2号調査_第9期 n=367】

4 認知症施策の推進

■認知症についての相談窓口

在宅調査 問35、ニーズ調査 問75-②

認知症について相談する場合、どの相談窓口に相談しますか。(複数選択可)

認知症について相談する場合の相談先についてみると、在宅調査では「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」が74.8%で最も多く、次いで「主治医（かかりつけ医）」が48.7%、「介護サービス事業者」が19.8%となっています。「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」は第9期調査から2.1ポイント増加しており、認知症に関する身近な相談先として定着していることがうかがえます。一方、「主治医（かかりつけ医）」は4.4ポイント減少しています。

ニーズ調査では「地域包括支援センター」が66.1%で最も多く、「主治医（かかりつけ医）」が42.8%で続いています。「地域包括支援センター」は第9期調査から4.1ポイント増加しており、認知症についての相談先としての認知が高まっていることがうかがえます。

全体としては、在宅調査ではケアマネジャー、ニーズ調査では地域包括支援センターが中心的な相談先となっています。

	在宅調査		ニーズ調査	
	第10期	第9期	第10期	第9期
地域包括支援センター	16.8%	15.4%	66.1%	62.0%
認知症初期集中支援チーム	4.3%	4.2%	9.9%	11.0%
ケアマネジャー (居宅介護支援事業所)	74.8%	72.7%	31.4%	25.5%
介護サービス事業者	19.8%	17.2%	11.3%	9.8%
市役所【鈴鹿市保健センター、 あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】	7.0%	6.1%	26.9%	28.2%
鈴鹿亀山地区広域連合	3.7%	2.8%	9.5%	11.8%
主治医（かかりつけ医）	48.7%	53.1%	42.8%	49.4%
認知症専門の医療機関	14.5%	12.4%	23.7%	22.7%
その他	1.0%	1.4%	1.1%	0.0%
相談するところがない	1.0%	0.5%	0.4%	0.4%
わからない	5.9%	5.6%		

【在宅調査_第10期 n=489、在宅調査_第9期 n=571、ニーズ調査_第10期 n=283、ニーズ調査_第9期 n=255】

■認知症に対する介護者の困りごと

在宅調査 問36－②

認知症に対して、主な介護者の方が困っていることは何ですか。(3つまで選択可)

「精神的に滅入ってしまう」が49.0%で最も多く、次いで「肉体的に疲れてしまう」が21.3%、「特にない」が17.8%となっています。

第9期から第10期にかけて「精神的に滅入ってしまう」は1.3ポイント増加しており、認知症の介護に伴う精神的負担の大きさがうかがえます。

	第10期	第9期
特にない	17.8%	21.4%
一人歩きをしたり、夜間に行動するなど、目が行き届かない	12.7%	11.7%
介護者に対する暴力や暴言がある	11.8%	15.9%
地域に対する引け目を感じてしまう	2.5%	4.2%
家族や地域の人などの理解が足りない	4.1%	5.2%
介護の方法が分からない	11.1%	10.7%
本人が受診したがない	6.4%	5.8%
本人が介護サービスを受けたがない	12.1%	12.3%
サービスが認知症にうまく対応できていない	3.5%	2.6%
認知症に対応した施設に空きがない	3.2%	1.9%
精神的に滅入ってしまう	49.0%	47.7%
肉体的に疲れてしまう	21.3%	22.7%
本人にあたったり、放っておいてしまうことがある	14.0%	11.4%
その他	8.6%	5.8%
わからない	7.3%	3.9%

【在宅調査_第10期 n=314、在宅調査_第9期 n=308】

(※ここに、本人ミーティングの結果概要を挿入します)

5 在宅生活の支援

■今後の生活場所への希望

在宅調査 問5・29(介護者)、ニーズ調査 問66、2号調査 問8

ご本人は、これからの生活をどこでどのように送りたいとお考えですか。(1つを選択)

これからの生活をどこでどのように送りたいかについてみると、いずれの調査でも「介護サービスを利用しながら、自宅で生活を続けたい(自宅で介護をしたい)」が最も多くなっています。在宅調査では59.2%、在宅調査(介護者)では60.4%、ニーズ調査では54.9%、2号調査では49.6%となっており、いずれも在宅での生活や介護の継続を希望する割合が最も高くなっています。特に、在宅調査では第9期調査から1.8ポイント、在宅調査(介護者)では3.6ポイント上昇しており、介護サービスを活用しながら在宅での生活や介護を続けたい意向がうかがえます。ニーズ調査と2号調査では、「介護サービスを利用しながら、自宅で生活を続けたい(自宅で介護をしたい)」が第9期調査よりそれぞれ2.8ポイント、1.6ポイント低下しているものの、引き続き最も高い割合となっています。

一方で、「施設に入所・入居したい(入所・入居させたい)」も一定の割合を占めており、在宅調査では12.8%、在宅調査(介護者)では26.5%、ニーズ調査では20.0%、2号調査では34.3%となっています。全体としては、在宅での生活継続を望む意向が中心である一方、特に在宅調査(介護者)や2号調査では施設入所・入居を希望する割合も比較的高く、在宅生活の継続支援と施設サービスの両面の充実が求められていることがうかがえます。

	在宅調査		在宅調査(介護者)	
	第10期	第9期	第10期	第9期
家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい (家族のみで、自宅で介護をしたい)	11.7%	14.2%	4.3%	5.7%
介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい (介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい)	59.2%	57.4%	60.4%	56.8%
施設に入所・入居したい (施設に入所・入居させたい)	12.8%	12.8%	26.5%	26.0%
その他	3.4%	3.3%	3.5%	3.2%
わからない	12.9%	12.3%	5.3%	8.2%

【在宅調査_第10期 n=784、在宅調査_第9期 n=718、在宅調査(介護者)_第10期 n=490、在宅調査(介護者)_第9期 n=558】

	ニーズ調査		2号調査	
	第10期	第9期	第10期	第9期
家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい (家族のみで、自宅で介護をしたい)	10.8%	11.4%	3.0%	1.7%
介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい (介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい)	54.9%	57.7%	49.6%	51.2%
施設に入所・入居したい (施設に入所・入居させたい)	20.0%	17.2%	34.3%	32.8%
その他	0.6%	0.3%	1.7%	1.9%
わからない	13.7%	13.5%	11.4%	12.4%

【ニーズ調査_第10期 n=881、ニーズ調査_第9期 n=914、2号調査_第10期 n=361、2号調査_第9期 n=363】

■在宅生活を続けるための条件

在宅調査 問29-②、ニーズ調査 問66-②、2号調査 問8-②

どのような条件が整えば、自宅で生活を続けることができますか。（3つまで選択可）
※施設に入所・入居させたい（したい）と回答した人に訊いた。

どのような条件が整えば自宅で生活を続けることができるかについてみると、いずれの調査でも「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が最も多くなっています。次いで、在宅調査では「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」、ニーズ調査では「在宅で十分な医療を受けられる」、2号調査では「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」が高くなっています。

前回調査との比較では、在宅調査で「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」が12.5ポイント、「家事、外出など生活面の手助け」が19.5ポイント増加しており、在宅生活の継続に向けて、急変時の対応や生活支援に対するニーズが高まっていることがうかがえます。ニーズ調査では「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が5.7ポイント増加しており、2号調査では「家事、外出など生活面の手助け」が4.0ポイント増加しており、生活支援に対するニーズの高まりがみられます。

全体としては、在宅生活の継続にあたって、十分な介護サービスの確保が最も重視されており、あわせて急変時の対応や生活支援、医療体制の充実に対するニーズも高いことがうかがえます。

	在宅調査		ニーズ調査		2号調査	
	第10期	第9期	第10期	第9期	第10期	第9期
在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	46.4%	49.6%	50.0%	44.3%	76.4%	76.3%
夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制	45.6%	33.1%	28.3%	40.7%	65.0%	66.1%
在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	29.6%	30.8%	25.9%	23.6%	55.3%	50.8%
在宅で十分な医療を受けられる	24.8%	25.6%	34.9%	27.1%	47.2%	55.9%
介護しやすいような住宅への改修	9.6%	21.1%	13.9%	10.0%	42.3%	36.4%
一人歩き等の見守りなど、地域の支援	7.2%	17.3%	2.4%	0.7%	20.3%	15.3%
介護している方への支援	25.6%	6.8%	16.3%	17.9%	54.5%	49.2%
家事、外出など生活面の手助け	24.0%	4.5%	21.1%	28.6%	47.2%	43.2%
その他	11.2%	10.5%	3.0%	4.3%	4.9%	6.8%
わからない	9.6%	15.8%	19.3%	10.7%		

【在宅調査_第10期 n=125、在宅調査_第9期 n=133、ニーズ調査_第10期 n=166、ニーズ調査_第9期 n=140、2号調査_第10期 n=123、2号調査_第9期 n=118】

■介護者の困りごと

在宅調査 問24

主な介護者の方が介護する上で、どんなことに困っていますか。（3つまで選択可）

介護をする上で困っていることについては、「精神的に滅入ってしまう」が37.1%で最も多く、次いで「介護者の代わりがない」が33.9%、「肉体的に疲れてしまう」が29.8%となっています。第9期から第10期にかけて「精神的に滅入ってしまう」は7.4ポイント、「肉体的に疲れてしまう」は7.3ポイント、「介護者の代わりがない」は4.8ポイント増加しています。一方、「特にない」は3.8ポイント減少しています。主な介護者の困りごとは、心身の負担や、介護を代わる人がいないことに関する項目に集中しています。

	第10期	第9期
特にない	16.5%	20.3%
介護の方法がわからない	4.8%	3.9%
本人が介護サービスを受けたがらない	10.7%	10.1%
家族や親戚の人などの理解が足りない	5.0%	2.6%
相談する人や悩みを聞いてくれる人がいない	3.6%	2.9%
介護者の代わりがない	33.9%	29.1%
精神的に滅入ってしまう	37.1%	29.7%
肉体的に疲れてしまう	29.8%	22.5%
経済的な負担が大きい	10.9%	12.9%
仕事や学業との両立が難しい	8.7%	12.5%
自分の時間がもてない	21.2%	17.1%
健康状態に不安がある	24.4%	23.2%
本人にあたったり、放っておいてしまうことがある	8.1%	5.9%
その他	3.6%	3.7%
わからない	4.2%	2.9%

【第10期調査 n=496、第9期調査 n=543】

6 権利擁護の推進

■成年後見や財産管理についての相談窓口

在宅調査 問38

成年後見や財産管理などについて相談する場合、どの相談窓口に相談しますか。(複数選択可)

成年後見や財産管理などの相談先については、「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」が42.0%で最も多く、次いで「わからない」が25.5%、「市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】」が20.1%となっています。また、「鈴鹿亀山地区広域連合」は4.1%、「相談するところがない」は3.5%となっています。

第9期から第10期にかけて、「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」は3.8ポイント増加しています。

	第10期	第9期
ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	 42.0%	 38.2%
介護サービス事業者	 8.1%	 6.4%
地域包括支援センター	 15.7%	 13.4%
市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】	 20.1%	 26.1%
鈴鹿亀山地区広域連合	 4.1%	 4.8%
弁護士、司法書士	 13.5%	 15.6%
成年後見サポートセンター（社会福祉協議会）	 11.0%	 9.9%
その他	 5.0%	 5.5%
相談するところがない	 3.5%	 2.4%
わからない	 25.5%	 24.2%

【第10期調査 n=483、第9期調査 n=545】

■成年後見や財産管理に関する不安

在宅調査 問39

成年後見や財産管理などが必要になった場合、どのようなことに不安を感じますか。
(複数選択可)

成年後見や財産管理などが必要になった場合に不安を感じることは、「どのようなタイミングで制度を利用すべきか」が41.4%と最も多く、次いで「手続きなどが難しく、面倒なのではないか」が39.9%、「弁護士などに頼む費用がかさむのではないか」が26.7%と続いています。
第9期から第10期にかけて「手続きなどが難しく、面倒なのではないか」は0.3ポイント減少していますが、引き続き利用時期や手続きの複雑さに対する不安が大きいことがうかがえます。

	第10期	第9期
特に不安を感じることはない	29.2%	26.1%
どのようなタイミングで制度を利用すべきか	41.4%	45.8%
手続きなどが難しく、面倒なのではないか	39.9%	40.2%
家族などが制約を受けるのではないか	21.0%	21.8%
弁護士などに頼む費用がかさむのではないか	26.7%	26.9%
その他	5.5%	5.3%

【第10期調査 n=476、第9期調査 n=528】

7 住まいを中心とした環境整備

■施設等への入所・入居の検討状況

在宅調査 問6

現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（1つを選択）

施設等への入所・入居の検討状況については、「入所・入居は検討していない」が63.3%で最も多い一方、「入所・入居を検討している」が19.0%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が17.7%となっています。

「すでに入所・入居申し込みをしている」は第9期から3.2ポイント増加しており、一定の入所・入居ニーズがみられます。

	第10期	第9期
入所・入居は検討していない	 63.3%	 67.2%
入所・入居を検討している	 19.0%	 18.3%
すでに入所・入居申し込みをしている	 17.7%	 14.5%

【第10期調査 n=735、第9期調査 n=683】

■住まいに関する不安

在宅調査 問4、ニーズ調査 問5

現在のお住まいに対し、今後に向けて不安がありますか。（複数選択可）

現在の住まいに対する今後に向けての不安についてみると、在宅調査、ニーズ調査ともに「特にない」が最も多く、在宅調査では47.2%、ニーズ調査では41.1%となっています。一方で、不安に思う内容としては、在宅調査では「家の維持修繕がしていけるか不安」が23.5%、「バリアフリーになっていない」が22.1%、「耐震性が低い」が19.9%、「家の清掃がしていけるか不安」が19.3%で続いています。

ニーズ調査でも、「家の維持修繕がしていけるか不安」が33.1%で最も多く、次いで「耐震性が低い」が27.2%、「バリアフリーになっていない」が26.1%となっています。

全体としては、「特にない」が最も多いものの、住まいの維持管理やバリアフリー化、耐震性など、住まいの構造面や管理面に不安を抱えている人が一定数いることがうかがえます。

	在宅調査		ニーズ調査	
	第10期	第9期	第10期	第9期
特にない	47.2%	50.8%	41.1%	40.1%
家賃が払っていけるか不安	4.5%	4.5%	1.9%	3.4%
水道光熱費が払っていけるか不安	4.5%	6.5%	4.1%	8.6%
家の維持修繕がしていけるか不安	23.5%	20.5%	33.1%	32.0%
家の清掃がしていけるか不安	19.3%	18.0%	11.7%	13.5%
バリアフリーになっていない	22.1%	22.4%	26.1%	27.2%
狭い（介護ヘルパーが入れないなど）	1.8%	1.4%	1.4%	1.7%
プライバシー面が不安	2.4%	3.0%	0.9%	1.4%
防犯面が不安	17.3%	12.4%	16.6%	10.1%
耐震性が低い	19.9%	12.9%	27.2%	22.3%
大雨の時に浸水の恐れがある	4.8%	4.1%	4.6%	6.0%
その他	4.2%	4.1%	2.7%	2.3%

【在宅調査_第10期 n=784、在宅調査_第9期 n=727、ニーズ調査_第10期 n=898、ニーズ調査_第9期 n=923】